



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 643 回 フォトスタジオと写真館

2015.8.23



記念写真を、当日ではなく前もって撮影しておくことを「前撮り」と言うらしい。

孫の「七五三」の前撮りということで、おじいちゃん、おばあちゃんもいそいそと「フォトスタジオ」に出かけていった。

記念写真を撮るのは、昔は決まって写真館だった。

重厚な三脚に据えられた二眼レフのカメラと、いかにも名人と言った感じのおじさんカメラマンが、細部にも注意を払いつつ、一写入魂といった感じでシャッターを押す…これが職人芸を誇るプロの写真館である。

そんなイメージでのぞきに行ったおじいちゃんは、驚いた。

ここは全く写真館ではない。

なるほど「フォトスタジオ」なのだ、妙に感心して、一人で納得し、やたらワクワクしていた。

まず、お店が綺麗、明るい、スタッフが若い！いかめしい職人は一人もいない。

3歳の子供が飛んで跳ねて、一瞬で溶け込んでしまう、そんなイメージは、写真館とは異質なものだ。テーマが違う幾つかの部屋があり、各お部屋の世界観に合った、こだわりの着物、ドレスをスタッフが提案…先ずスタジオ選びと衣装選びから前撮りが始まる。

そのイチイチに、おじいちゃんとおばあちゃんも大はしゃぎ、「かわいい、かわいい」の連呼となった。

初めて腕を通す「晴れ着」の着付け、おじいちゃんはもう、ウルウル目。

そして、各お部屋の世界観と衣装に合わせたヘアメイクである。

若いスタッフのお姉さんが、孫とお友達感覚で話をしながら、あっという間に仕上げていく見事さに、おじいちゃんは「なるほど」と頷くばかり、生まれて初めて赤い紅を唇につけた孫を見て、デレデレと顔が緩みっぱなしであった。

小物、小道具により、全体コーディネートをし、撮影準備 OK である。

孫とお姉さんスタッフは、仲良く楽しそうに遊んでいる時、いよいよイケメン(?)のお兄さんがキャンンのカメラを携えて登場、撮影タイムである。

と思いきや、孫とお姉さんスタッフと、お兄さんと3人で遊んでいるだけである。

「はい構えて…」「カメラを見て…」「はい、ちょっと動かないで…」「はい、撮りますよ～」、良く写真屋さんで飛び交う言葉は、ここには一切なかった。

厳粛な記念の1枚…そんな写真を目指していない。

楽しくて、嬉しくて…そんな姿を残したい、成長を祝う七五三は記念すべき晴れの日、

めいっぱいおしゃべりして、今日だけは「私がスター」、

恐らくこれが「フォトスタジオ」のコンセプトに違いない。

ここにはおおよそ、禁止事項がほとんどない。ちょっとした飲食の持ち込みもOKだ。スタジオ内でもパパ、ママ、おじいちゃんのカメラ使用OK、子供がちょいご機嫌悪くなら、子供を遊ばせながら、家族・友人同士ともゆったりとお過ごしいただけるコミュニティスペースも併設されている。

写した写真はすぐにCD化、パスワードを頂き、10年間は同社のホームページにて自由にダウンロードできるのも、嬉しいサービスである。

そうであればここは、写真屋にあらず、まさしく「エンターテインメント業」、人々を楽しませるビジネスなのかもしれない。だから写真のプロはいないし化粧のプロも、着付けのプロもいない。でも一通りできる、若い素敵なエンターテイナーがたくさんいる、素晴らしい体験をさせて頂いた。

